

没後200年記念

増田 山雨 文雨 展

MASHI
YAMA
SAI

虫好き大名、

今日も描く。



2019
4/20 sat
6/16 sun

休館日 毎週月曜日

(但し4月29日、5月6日開館、5月7日火)

開館時間 午前9時30分〜午後5時

(入館は午後4時30分まで)

主催 三重県立美術館、朝日新聞社

助成 公益財団法人岡田文化財団

公益財団法人三重県立美術館協力会

特別協力 国立文化財機構文化財活用センター、

東京国立博物館

後援 桑名市、桑名市教育委員会

※会期中、作品の展示替えを行います。

三重県立美術館

Mie Prefectural Art Museum



増山雪齋 (虫豸帖) 東京国立博物館所蔵 Inseki no Mokuken Kenkyū
増山雪齋 (猫図七言絶句) 文化庁年1814 個人蔵
増山雪齋 (草花蛸蛸圖) 個人蔵



伊勢国長島藩第5代藩主・増山正賢(1754-1819)は、書画に長けた文人大名として、「雪斎」の号で知られています。画は、清の沈南蘋に私淑し、山水人物から花卉草虫に至るまで、数多くの作品を遺しました。とりわけ、虫類

を真写した博物図譜、南蘋流の花鳥画にみられる表現の精緻は、高く評価されてきました。雪斎の細やかな写生は、江戸博物学の発展という時代背景とともに、愛護の心に富んだ人格によるものといえます。雪斎の師友に対する情はあつく、江戸詰のお抱え絵師の春木南湖を長崎に遊学させて、来船清人・費晴湖に画を学ばせるなど厚遇し、また大坂の木村兼葎堂が零落した時は、しばらく領内にて庇護し、その苦境を支えました。藩も身分も越えた親交は、雪斎の文人的教養を高めるにとどまらず、長島藩の文化振興にも影響を与えました。本展覧会では、没後200年という節目の年にあたって、雪斎の業績を顕彰し、雪斎の画業をたどる作品、雪斎とこの地に関わりのある画家の作品を広く紹介します。

- ① 春木南湖(雪斎公肖像画)部分 文化14年(1817) 個人蔵
- ② 増山雪斎(老松泉鳥図)寛政4年(1792) 個人蔵
- ③ 増山雪斎(黄蜀葵に翡翠図)個人蔵
- ④ 木村兼葎堂(兼葎堂日記(羽間文庫本))大阪歴史博物館蔵
- ⑤ 増山雪斎(虫寄帖)東京国立博物館蔵

夜中、窓の前にとまったミミズクを描きました。



雪斎は、花や鳥などの絵が得意でした。



雪斎の親友、兼葎堂の日記。



Image: INM Image Archives



三重県立美術館

Mie Prefectural Art Museum
〒514-0007 三重県津市大谷町11
TEL 059-227-2100
FAX 059-223-0570

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

Follow us on Twitter @mie_kenbi

観覧料

一般 900(700)円、学生 700(500)円

高校生以下無料

- ・()内は、前売りおよび20名以上の団体割引料金
- ・この料金で常設展示もご覧いただけます。
- ・障害者手帳等をお持ちの方および付添いの方1名は観覧料無料。
- ・家庭の日(毎月第3日曜日)は団体割引料金となります。
- ・主な前売り券販売所：チケットぴあ、セブンイレブン、ファミリーマート他

2019年7月6日(土)〜9月1日(日) デンマークデザイン展

●ギャラリートーク

本展担当スタッフが、展覧会や作品の魅力についてお話しします。観覧券をお持ちの上、企画展示室にお集まりください。約20分。
5月11日(土)、6月8日(土) 午後2時から
事前申込不要・聴講無料

●特別講演会

「雪斎風雅を愛でる」
5月18日(土) 午後2時から午後3時30分
(午後1時30分開場)
講師：山口泰弘(三重大学教育学部教授)
会場：三重県立美術館講堂
定員：150名・聴講無料・事前申込不要

